

【授業実践開発班：エ 日本史A 単元「第一次世界大戦と日本」】

資料から読み解く大戦景気 —複数の資料を活用した授業実践—

1 はじめに

日本史Aの授業では、授業進捗の関係もあり人物名や重要語句を覚えさせることが中心となりがちで、生徒もテストのために覚えるということで終わってしまうことが多い。そこで今回は大戦景気に関する複数の資料を生徒に提示し、その内容を読み解く授業を行うことで、資料活用の技能を育成することを目指した。また読み取った内容から大戦景気を与えた影響についてまとめさせることで、自ら考察し文章で表現する能力を身に付けさせたいと考え、個人での学習活動とグループワークを併用した授業を実施した。

2 実施する科目 日本史A

3 日時・場所 令和2年9月16日(水) 第5限 2年4組教室

4 学級 2年4組(普通科) 男子22名 女子19名 計41名

5 単元名 第3章 第一次世界大戦と日本 3 経済・社会の変容

6 単元の目標

- (1) 資料から大戦景気の実態について読み取り、経済や社会に与えた影響について考察させる。
- (2) さまざまな社会運動の発展について理解させ、普通選挙が求められた理由について考察させる。

7 単元の指導計画

(1) 単元の配当時間(2時間)

- ・主題学習「大戦景気」 1時間(本時)
- ・社会運動の勃興と普選運動 1時間

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
大戦景気とそれがもたらした社会の変化について興味・関心をもち、積極的に授業に参加している。	大戦景気が日本の経済、社会に与えた影響について、資料に基づきながら自分の言葉で表現している。	複数の資料を組み合わせることで、大戦景気の実態について深く読み取ることができる。	大正デモクラシーの風潮の中、大戦景気のひずみにより発生したさまざまな社会運動について理解している。

(3) 指導と評価の計画（2時間）

次程	ねらい・学習活動等	関	思	技	知	評価規準等
第一次 （1時間）	<p>【ねらい】複数の資料から大戦景気の実態を読み取り，大戦景気が日本の経済や，社会に与えた影響について考察させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料を組み合わせて，大戦景気の実態について読み取る。 ・大戦景気が日本の経済，社会に与えた影響について考察する。 	●		●		<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料を組み合わせて新たな視点からの情報を読み取っている。 （ワークシート） ・複数の資料を基に，大戦景気が日本の経済や社会に与えた影響について考察している。 （ワークシート）
第二次 （1時間）	<p>【ねらい】大戦景気のひずみの中，さまざまな社会運動が発展したことを理解し，諸問題解決のため普通選挙が求められた点について考察させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大戦景気によるひずみの中，さまざまな社会運動が展開されたことについて理解する。 ・さまざまな社会運動が展開される中で，普通選挙が求められた理由について考察する。 	●		●		<ul style="list-style-type: none"> ・労働運動だけでなく，さまざまな社会運動が展開された点について理解している。 （ワークシート） ・諸問題解決の方策として国民の政治参加が求められた点について考察している。 （ワークシート）

8 本時の学習

- (1) 本時の目標 大戦景気の実態について複数の資料を組み合わせ読み取り，日本の経済や社会に与えた影響について考察して自分の言葉でまとめさせる。
- (2) 教材 ワークシート「大戦景気について考える」，参考資料「大戦景気」
- (3) 本時の指導計画

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 (5分)	本時の説明	・本時の学習内容，目的を理解する。	・教科書，資料集は使用しないため，しまわせる。	
展開1 (10分)	ワーク1 大戦景気に関する資料の読み取り	・大戦景気に関する資料1～11を読み，それぞれ読み取ることができる情報をワークシートに記入する。	・読み取ることができる情報は一つとは限らないことに留意させ，周囲と相談せずに読み取らせる。	【資料活用の技能】 ワークシート
展開2 (20分)	ワーク2 複数の資料から見える大戦景気	・複数の資料を組み合わせることで読み取ることができる情報についてワークシートに記入する。 ・4人程度のグループを作り，意見交換をしながらより深く考察する。 ・グループ内で共有した情報を代表者が発表する。	・組み合わせることにより具体化できただけでなく，新たに見えてくることについても読み取らせる。 ・他者の意見やアドバイスについては色ペンで記入させ，思考の深化を分かるようにさせる。	【資料活用の技能】 ワークシート
展開3 (10分)	ワーク3 大戦景気の影響	・グループを解体し，大戦景気が日本の経済，社会に与えた影響について各自で考察し，ワークシートにまとめる。	・大戦景気が日に与えた影響を資料に基づいて考察させ，自分の言葉でまとめさせる。	【思考・判断・表現】 ワークシート
まとめ (5分)	本時のまとめ	・ワークシートに本時の感想や新たな発見などを記入する。	・ワークシートを回収する。	

(4) 本時の評価基準

- ・複数の資料を基に大戦景気が日本経済や社会に与えた影響について考察している。

【思考・判断・表現】

「おおむね満足できる」状況(B)と評価される例
・輸出の拡大により紡績や製糸業などの繊維産業が大きく成長する一方、海運や造船業の成長重工業の発展を促し、工場労働者が増加した。また物価の上昇が賃金上昇を上回っていたため、労働者の生活は苦しく、労働争議が多発する一因となった。
「十分満足できる」状況(A)と評価される例
・上記(B)の記述に加え、工業生産額が農業生産額を上回った点、繊維産業の好調な輸出が貿易黒字につながった点、貧しい工場労働者と一部の成金の対比などについても説明している。
「努力を要する」状況(C)と評価される生徒の例と教師の指導
・大戦景気が日本の経済や社会に与えた影響について考察できていない。 →資料から読み取ることができる内容を確認させ、再度考察させる。

9 生徒が見方・考え方を働かせた場面

(1) **ワーク 1**の記入例

資料 2：大戦前は蒸気機関が主だったが、大戦中から電動機が上回っている。
資料 4：賃金も上昇しているがそれ以上に物価も上昇している。
資料 6：生産総額が約 4 倍となり、工業の割合が農業の割合を上回る。
資料 11：農業従事者が工場で働くようになった。

今回の資料は、全て教科書や資料集から引用（一部加工）したもので、生徒には分かりやすいものであった。そのため多くの生徒が必要な情報を読み取ることができた。特に大戦景気の特徴である輸出超過や蒸気機関から電力への転換、農業国から工業国へといった基本的な内容は確認することができた。

(2) **ワーク 2**の記入例

資料 2, 8

従来の蒸気機関の動力に加えて、電動機を大量に導入したことによって製造業が飛躍的に活発化したと考えられる。

資料 1, 5, 9

生糸や綿織物生産・輸出が増加した結果、輸出総額が輸入総額を超えるようになり、債務国から債権国となった。

資料 3, 4, 6, 11

工業生産額が増加し、農村から出て工場などで働く人が増加したが、物価上昇に賃金が追いつかず、生活が苦しかった労働者が労働争議を起こした。

複数の資料を自由に組み合わせて考察することは、生徒にとっても新たな経験のようであったが熱心に取り組んでいた。2つの資料の組み合わせが多いのではと思っていたが、3つ以上の資料を組み合わせる生徒の方が多かった点は評価できる。また、ある程度個人の考えをまとめたところで周囲の生徒と意見交換を行わせた。その結果、積極的な議論が行われ、深く考えようとする姿勢が見られた。

蒸気機関から電力へ、繊維産業を中心とした輸出の拡大、低賃金の工場労働者が労働争議に参加し

たなどの基本的な内容は、多くの生徒が考察することができた。また資料6, 7, 8より「工業生産額や工場などの増加に対し労働者の増加割合が少ないのは、電力を用いた機械生産による効率化では」という意見や、資料1, 10より「1928年の絵であるということは、この後恐慌が発生することも知らなくて、という皮肉の意味がある」など、細かな点に着目する生徒もいた。

(3) **ワーク3**の記入例

戦争需要による造船業、製糸業、紡績業などの産業の発展と、それに伴う機械化による効率化で、日本の経済は飛躍的に成長した。しかし低賃金と高物価に苦しむ人々と、成功して財をなす人々との格差が拡大し、それが労働争議へと発展した。また都市の発達による労働力需要の増加が、農村から都市への人口流入を引き起こした。

ワーク2で資料の読み取りがある程度できていたものの、メモ書き程度の記入の生徒も多かったため、自分の言葉でまとめられるかが不安もあったが、ほとんどの生徒がきちんと文章化してまとめることができた。その一方で事実を羅列にとどまった生徒も見られ、「歴史は覚えるもの」との感覚から抜け出せていないように感じられた。

本時の評価

A : 15人 (35.6%) B : 23人 (56.1%) C : 3人 (7.3%)

10 まとめ

(1) 成果

これまでの授業でも、一つの資料から読み取れることや考えられる点についての発問をしてきているので、生徒はスムーズに今回の学習にも取り組むことができた。またグループワークについては、今年度は実施できていなかったため多少の心配があったが先に個人学習で自分の考えをもたせたことと、中学時を含めて昨年までの経験が豊富にあったことなどから、活発に意見交換をすることができたとと言える。

(2) 課題

今回は手に入れやすい資料を活用するという意図で、教科書や資料集に掲載されている資料を活用した。また特定の事実を読み取らせるために資料を選んだわけではないため、生徒のさまざまな考察がみられた反面、やや焦点がぼやけてしまったところもあった。「複数の資料を組み合わせることで情報を読み取る」という目的には合致していたが「大戦景気が日本の経済・社会に与えた影響を説明する」という点からすると、資料の精選を図るべきであったかもしれない。

次の時間の冒頭に補足として、「大戦景気を支えた一つとして生糸と綿織物の輸出拡大があったが大戦中にどこにたくさん売れたのだろうか?」という発問をした。周囲の生徒と相談させたが、あまりよい回答は返ってこなかった。このことから、目の前にある資料を組み合わせることはできるが、現状を多面的・多角的に捉えた上で考察することまではできていないことが推測される。今後は考察するための材料(条件)を見つけ出す力を伸ばす授業が必要であると考えられる。

11 参考文献

- ・『最新日本史図表 三訂版』(第一学習社)
- ・『図説日本史通覧』(帝国書院)
- ・『歴史資料館 日本史のライブラリー』(東京法令出版)
- ・『新詳日本史』(浜島書店)
- ・『山川デジタル素材集日本史』(山川出版社)

◎ワークシート 一大戦景気について考えるー

ワーク1 それぞれの資料から何を読み取ることができるか？

○ 資料1

○ 資料2

○ 資料3

○ 資料4

○ 資料5

○ 資料6

○ 資料7

○ 資料8

○ 資料9

○ 資料10

○ 資料11

ワーク2 二つ以上の資料を組み合わせると何を読み取ることができるか？

○使用する資料： _____

○使用する資料： _____

○使用する資料： _____

○使用する資料： _____

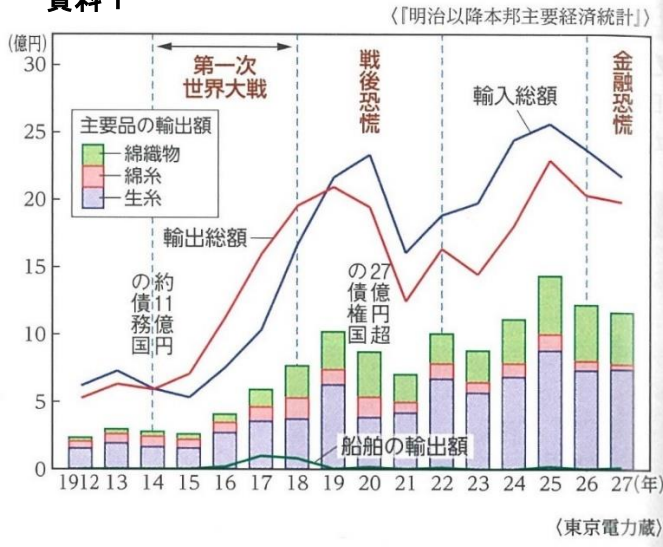
○使用する資料： _____

ワーク3 _____ 大戦景気が日本の経済や社会に与えた影響について説明せよ _____

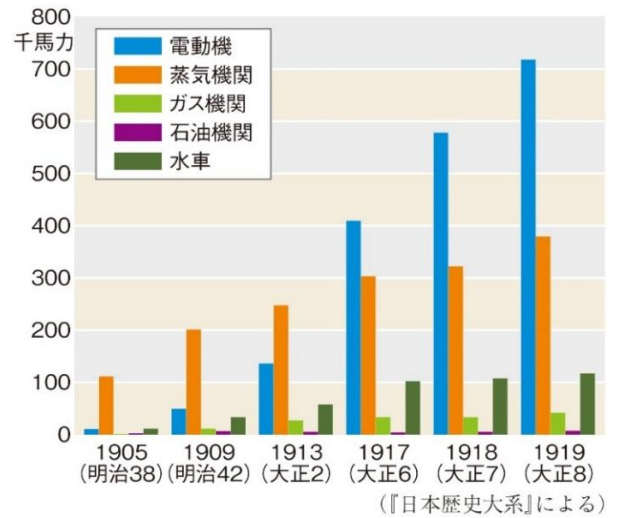
ふりかえり

新たな発見や気づいたことなど

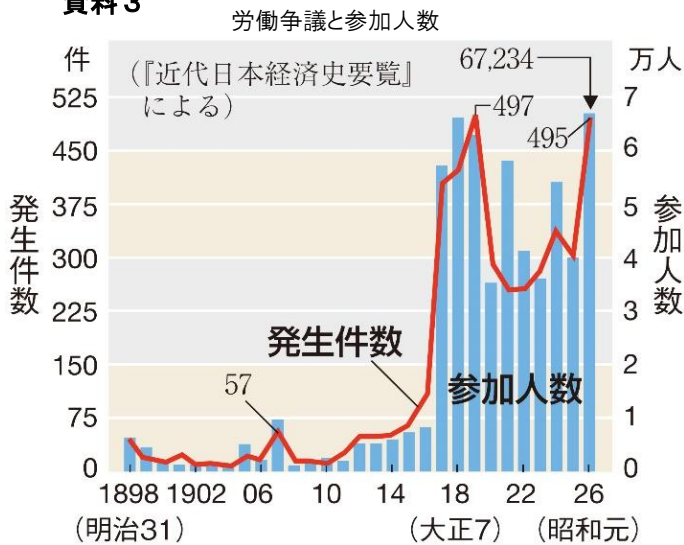
資料1



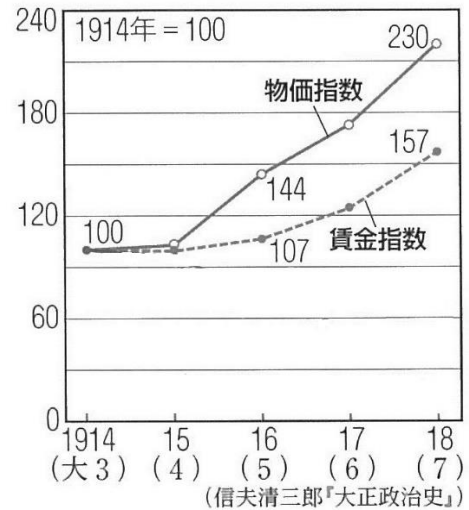
資料2



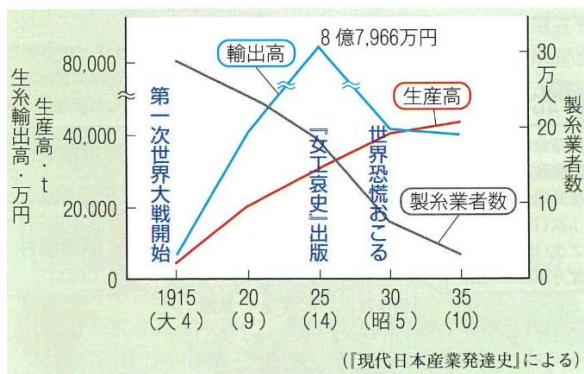
資料3



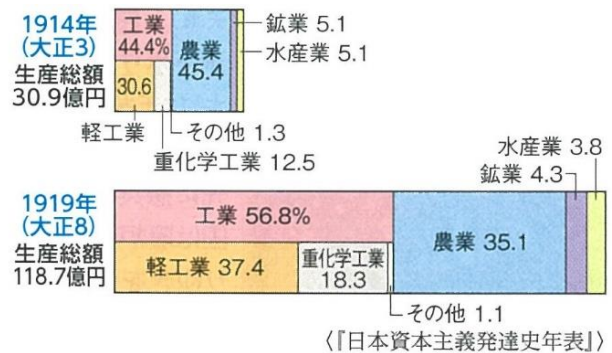
資料4



資料5



資料6



資料 7

	1913(A)	1918(B)	B/A(倍)
造船業者数	5	52	10.4
造船工場数	6	57	9.5
造船台数	17	157	9.2
工場労働者数	2万6139	10万7260	4.1
建造汽船総トン数	5万1525	62万6695	12.2

(三和良一『近現代日本経済史要覧』による)

資料 8

年	発電量 (百万kwh)	製造業の原動力馬力数(千馬力)		
		うち蒸気機関比率(%)	うち電動機比率(%)	
1914	1791	561.6	47.6	30.6
1919	4193	1262.6	30.1	56.8
1924	7835	2316.0	32.2	62.2
1929	15123	3783.5	20.0	78.3
1934	21774	4499.5	15.8	81.3

(東京大学出版会『日本経済史3』)

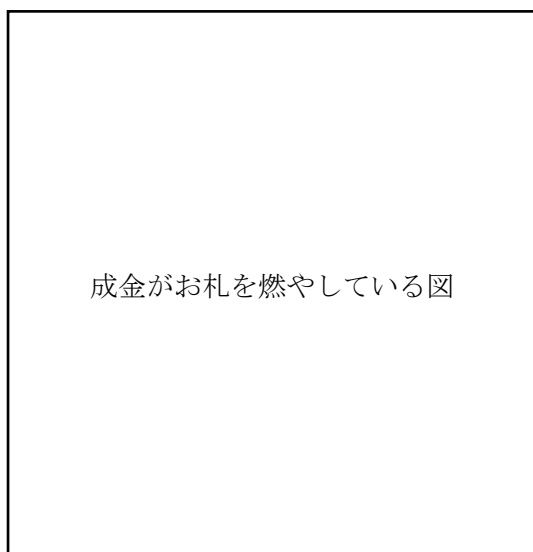
資料 9

企業の新設・拡張 (公称10万円以上の企業の資本金増加比)

業種	1914(大3) (A) (万円)	1919(大8) (B) (万円)	B/A(倍)
海運業	1930	1億9550	10.1
鉱業	1670	2億8940	17.3
重化学工業	1460	2億4930	17.1
化学造船業	20	2240	112.0
工業金属工業	130	4470	34.4
紡績業	170	2億6020	153.1
織布業	320	2億1390	66.8
銀行業	5200	6億4260	12.4
鉄道業	3120	2億1710	7.0
電力業	3100	4億6100	14.9
全企業総計	2億5080	40億6850	16.2
以上のうち 新設	1億1710	26億8050	22.9
拡張	1億3370	13億8800	10.4

(高橋亀吉『大正昭和財界変動史』など)

資料 10



資料 11

